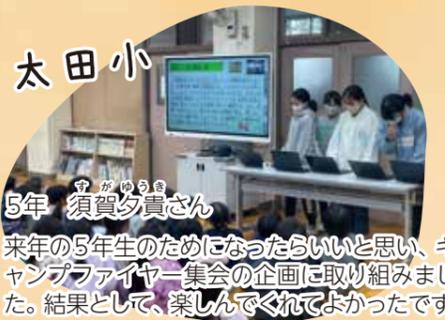




6年 石川優菜さん
静岡県の学校との交流やプロの方からのご指導など、いつもワクワクしながら学ぶことができました!



5年 須賀夕貴さん
来年の5年生のためになったらいいと思い、キャンプファイヤー集会の企画に取り組みました。結果として、楽しんでくれてよかったです。



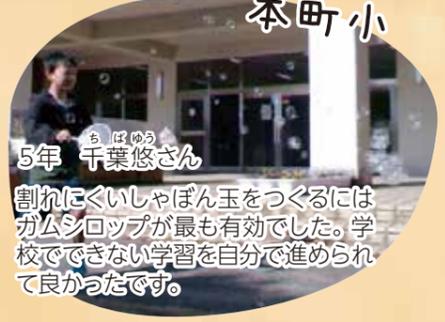
6年 大砂紘人さん
皆で意見交流しながら探究活動を行い、新しい形の「自分たちの久喜小の鼓笛」をつくりあげることができました。



6年 西田光希さん
野菜の皮などを土に混ぜました。畑に植えた植物が、どう成長するか楽しみです。



6年 金子優菜さん
実際に働いている方の話が聞け、将来について考えることができた。学びの多い授業でした。



5年 千葉悠さん
割れにくいしゃぼん玉をつくるにはガムシロップが最も有効でした。学校でできない学習を自分で進められて良かったです。



6年 内田翔さん
バトルキッズの時間でみんなで質問を考えることで友だちとの団結力を深めることができました。



4年 高橋未来翔さん
絶滅危惧種が増えないようにするために考えた方法を、生活に生かしていきたいです。



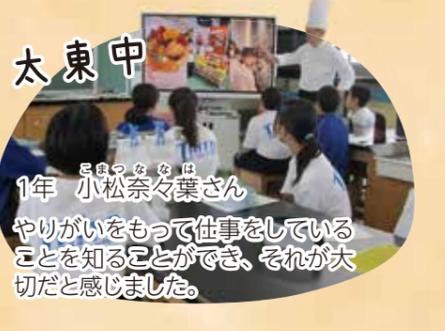
4年 関根柊人さん
地域のバリアフリーを探したり、友だちと協力してバリアフリーマップを作ったりするのが楽しかったです。



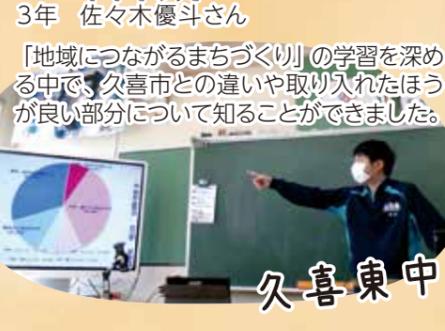
2年 田中琴葉さん
特別支援学校の生徒と時間を重ねる毎に少しずつ気持ちが通じ合い楽しく過ごせました。



1年 広任優羽さん
見方・考え方が異なるので誰にとっても分かりやすく伝えることの難しさを学びました。



1年 小松奈々さん
やりがいをもって仕事をしていることを知ることができ、それが大切だと感じました。



3年 佐々木優斗さん
「地域につながるまちづくり」の学習を深める中で、久喜市との違いや取り入れたほうが良い部分について知ることができました。

こどもたちに
探究的な
学びの感想
を聞きました!

久喜地区

これが令和の最先端!

～久喜の教育～

ICT教育やSTEAM教育、GIGAスクール構想など、さまざまな教育の在り方が広がる中、新たに『授業時数特例校制度』が誕生し、学校独自の授業を行えるようになりました。各校や地域の特色を生かした授業で、こどもたちの教育はさらに進んでいきます。

進化する教育

オンライン授業や一人一台端末を活用した学びなど、令和を生きたこどもたちの教育は進化し続けています。そのような中、一人ひとりまたはグループでの興味関心を広げながら、テーマに沿って学びにことごと向き合う「探究的な学び」へ授業を変えていくことが求められています。探究的な学びとは「物事の本質を探つて見極めようとする一連の知的営み」であり、自ら課題を設定し、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力を繰り返し返していく学びの在り方です。

特例校の指定

市では、この制度をいち早く活用し、運用が始まった令和4年度から

「探究的な学び」をより充実させるため、文部科学省では新たな仕組みである、「授業時数特例校制度」を令和4年度に創設しました。これにより、学校による裁量の幅が広がり、各校の特色に合わせた、より効果的な教育を実施できることが期待されています。

市内2つの学校で導入。そして、令和5年度からは、市内全31の小中学校へと拡大しました。制度の活用事例は、全国で77校しかないところ、その半数近くを久喜市の学校が占めています。

そんな教育の最先端をゆく久喜市のこどもたちは、各校の特色がふれる、地域を巻き込んだ学びに取り組んでいます。

今月は、学校独自の授業を行う、市内全31校の取り組みを紹介します。

Interview



中村学園大学
教育学部教授
山本朋弘さん

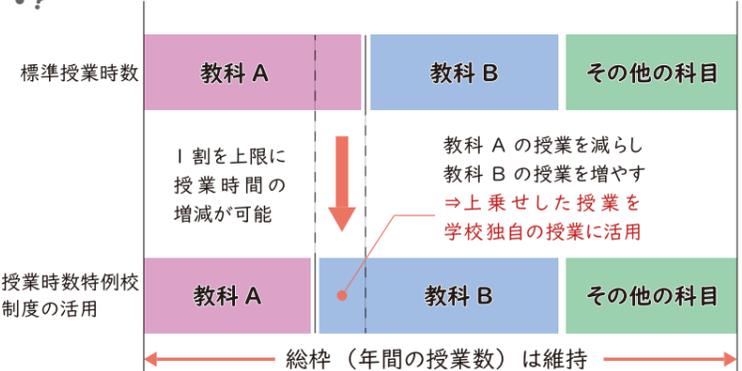
これからの社会において、自ら考え行動して生き抜くこどもたちを育てるためには、自ら設定した課題を探究的に解決して、**学びの愉しさ**を体感できることが必要です。

久喜市が取り組んでいる探究学習やSTEAM教育は、まさにこどもたちが学びの愉しさを体感できる授業であるといえます。

授業時数特例校制度？

全体の授業時間は維持したまま、決められた教科の中で授業数を増減させ、独自の授業を行うことができる制度。

学校裁量の幅が拡大され、各校・各地域の特色を活かした特別な教育課程を実施できる。



※文部科学省の資料を基に作成